



地球市民



江別ユネスコ協会会報 第51号 (2018・1・25) 事務局・江別市教育委員会生涯学習課内

2018年の年頭にあたって

江別ユネスコ協会会長 押谷 一

あけましておめでとうございます。田村邦雄前会長を引き継ぎ、昨年より江別ユネスコ協会の会長を務めています。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願いいたします。

ユネスコは、さまざまな国の人びとの教育、科学、文化に対する協力と交流を通じて、国際平和と人類の福祉の促進を目的とした国際連合の専門機関ですが、日本政府はその運営のために、米国に次いで2番目となる分担金34億8700万円と、任意拠出金4億8100万円を支払うこと(2017年分)を決定したとのことです。アメリカではトランプ大統領の下で支払いを中止することも報道されていますが、近年、中国が負担金を増加させており、今後の運営のあり方が課題となっているようです。いずれにしても世界各地では、いまなお政治が混乱し、貧困や差別によって十分な教育を受けられない子どもたちが存在し、貴重な自然や遺跡の破壊が続いていますが、ユネスコの理念、目的は不変であり、わたしたち一人ひとりも活動を支えたいと存じます。

江別ユネスコ協会においても、会員数が低迷し、財政状況も大変厳しいなかにあります。今年度は可能な限り学習会を多く開催するなどして、会員の皆様とともに混沌としている現状を見つめて参る所存ですので、周りの方々にも入会をお勧め下さるようお願いいたします。

○新会長紹介 立正大短大部専任講師、立教大非常勤講師を経て1998年酪農学園大学へ。現在、農食環境学群環境共生学類・教授。シリア国環境科学研究所(JICA派遣専門家)などで海外・国内の多様な環境問題の研究と活動に従事してきました。

使用済み切手で海外医療協力を！ 回収にご協力をお願いします

江別ユネスコ協会は創立当初より使用済み切手の回収活動を行い、JOCS(日本海外医療協力会)へ寄贈しています。この切手は独自の方法で換金され、発展途上国の緊急医療活動の資金に当てられます。一時、受入れ作業が停滞したため国内の団体の多くは回収協力を中止しましたが、当協会は受入れ再開を見越して回収量を調整し回収を継続しました。現在では毎年1万枚を目標に回収作業を続け、協力団体・学校等の分も引き受けて発送費用も負担しています。毎年JOCSから感謝のハガキが送られてきます。2017年には4月に約5千枚を、12月に約4千枚を発送しました。

▼使用済み切手を梱包する事務局の皆さん



あなたは国際人ですか？

15年の留学経験を語る講演会

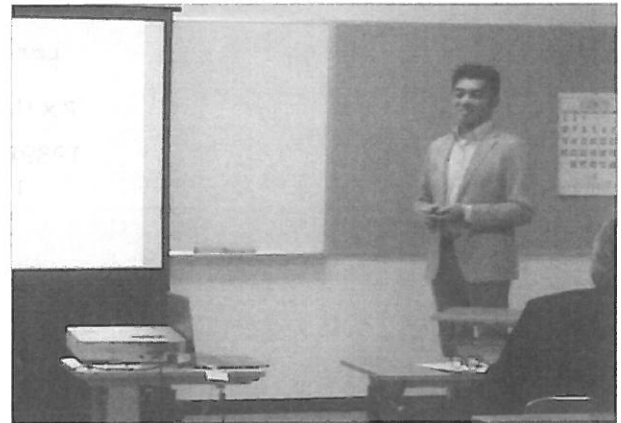
江別ユネスコ協会は、6月1日18時30分から、野幌公民館で文化講演会を開催しました。テーマは「国際人とは？2つのアイデンティティを通してわかったこと」で、講師は北翔大学准教授の浅井貴也（あさい・たかや）さんでした。

浅井先生は日本の中学校を卒業後、アカデミーオブアート大学（米国）に入学。卒業後は同大学の大学院を修了（MFA・芸術学修士）され、15年間のアメリカ留学経験をお持ちです。また、これまでに欧米・アジアの20を超える国々を訪れ、多様な文化、価値観について識見を磨かれました。その経験を活かして、いろいろな社会的活動にも尽力されています。

アメリカは日本の重要な友好国ですが、国民生活の詳細は、わたしたちは余り知りません。この機会に、浅井先生の経験されたアメリカの教育制度を通して、日米両国民の国際感覚の相違や日本の教育の欠陥など、幅広く、率直にお話しして頂きました。浅井先生から、講演の要旨として、つぎのようなコメントを頂きました。

「グローバル人材の育成・獲得が急務とされている現在、大企業の一部では英語の公用語が始まり、教育においては幼稚園からのバイリンガル教育、小学校からの英語必修化、大学では低迷した日本人留学生数の海外留学支援などが話題になっています。

英語が堪能であればグローバル人（国際人）となりえるのか？グローバル人材とはそもそも何か？日本人とは何か？について長年考えてきました。私は日本の中学校を卒業した後、単身渡米し、高校から大学院までおよそ15年間をアメリカで過ごしました。この2つの国の教育制度を通して学んだ両国の歴史と文化、価値観、様々な体験が



▲日米両国民の価値観の違いを語る浅井さん

今の私を作っています。その視点から“国際人とは何か？”を皆さんといっしょに考えます。」

この講演会の聴講者は、あらためて日米両国民の国家観・世界観の相違点を認識し、「アメリカ・ファースト」の本音も理解できたようで、今後の教育のあり方などを熱心に質問していました。

ユネスコ3大遺産登録のゆくえ

ユネスコは世界の様々な遺産を保護する事業を実施しています。その中核は世界遺産と無形文化遺産ですが、近年話題になっているのが世界記憶遺産（正式名称：世界の記憶）です。これらの遺産リストに日本の遺産も多数登録されています。

◇世界遺産 現在、世界の1073件の登録があり、日本からは文化遺産17件、自然遺産4件が登録されています。2018年登録候補に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」と「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」、2019年登録候補に「百舌鳥・古市古墳群」が推薦され、今年の世界遺産委員会はバーレーンで6月24日開会です。

◇無形文化遺産 現在、日本の登録数は21件で、2018年の登録候補は、秋田県の「男鹿のナマハゲ」など8遺産を一括した「来訪神・仮面・仮装の神々」を政府が推薦しており、11月頃に結論が出ます。

◇世界の記憶（通称：記憶遺産）現在、世界の427件が登録され、日本から7件登録できました。登録審査は2年毎で、民間からも推薦できます。

グレシャム市民を迎え賑やかに

江別ユネスコ協会が加盟している江別市国際交流推進協議会が、毎年開催している「みんなおいでよ！江別“世界市民”の集い」が、今年度も10月7日午後、野幌公民館の全館を使って開催されました。時あたかも江別市とオレゴン州グレシャム市との「姉妹都市提携40周年」を記念して、市長ご夫妻を含むグレシャム市民一行23名が江別を訪れており、この行事にも参加することになったので、加盟団体で組織された実行委員会は、「グレシャム市民と交流しましょう」をテーマに掲げ、張り切って多彩な歓迎行事を用意しました。日本の伝統文化を体験するコーナーが好評で、とくに女性は和服を着る初体験を楽しんでいました。

▼角田・実行委員長(江別ユ協理事・左)の挨拶



国際センター“冬の集い”開催

江別ユネスコ協会が加盟している江別市国際交流推進協議会は、今年も「国際センター・冬の集い2018」を、2月12日(月・祝)13時より、野幌町・イオンタウン2階の江別国際センターで開催します。交流サロンでは、北海道情報大のメディア学部によるプロジェクション・マッピングが上映され、ほかにピニャータ(くす玉割り)、キューバダンス、大麻泉小のリコーダー演奏、北翔大のケン玉パフォーマンス、ベトナムの歌、ギター演

奏などが行われ、会議室を利用して茶道のお点前や外国の料理の紹介、外国の写真展など、いろいろなイベントが準備されています。

当日は江別市内や札幌近郊の在留外国人や留学生の方々も多数参加する予定で、国際交流・相互理解を深める好い機会ですので、ユネスコ会員やご家族、小中学生も気軽に参加して、厳しい冬のひと時を楽しく過ごしてはいかがでしょうか。

江別ユ協の動き MEMO

(2017年2月～2018年1月)

- ◇北海道高校ユネスコ研究大会 2017年2月4～5日(会場：北海商科大学) 田村会長が出席。
- ◇「江別国際センター冬の集い」に参画 2月12日13時(会場：江別国際センター) 主催は江別市国際交流推進協議会。当日は田村会長ほか会員数名が出席して市内の在留外国人・留学生と交流。
- ◇会員募集ポスター掲示 3月25日、市内要所に。
- ◇使用済み切手回収活動 ①回収した約5,000枚をJOCS(日本海外医療協力会)へ4月7日発送。②約4,000枚をJOCSへ12月28日発送。
- ◇江別ユ協役員会 4月14日18時(野幌公民館)
- ◇「ユネスコ活動のしおり第24号」の発行 江別ユ協編集の学習資料「ユネスコエコパークと世界ジオパーク」6月20日発行。会員・関係者に配布。
- ◇北海道ユネスコ連絡協議会定期総会 5月19日14時(札幌すみれホテル) 田村会長が出席(この総会で田村会長は道ユ協副会長を3期6年務め重任期間満了、常任理事に就任)
- ◇書き損じハガキ回収 5月31日、連盟へ発送。
- ◇江別ユネスコ協会定期総会 6月1日18時、(野幌公民館) 事業計画・予算決算・役員改選を審議、新会長に押谷一氏・副会長に町村均氏が就任。
- ◇「みどりの絵」コンクールのPRに協力 三菱環境財団・日ユ連盟主催の絵画コンクールに応募を勧める文書を市内全小学校長へ6月6日発送。
- ◇私のまちのたからもの・スライドショーコンテ

ストのPRに協力 三菱環境財団と日ユ連盟が主催するコンテストへの参加を勧める文書を市内全小中学校長へ7月17日に発送。

◇第6回道ユネスコスクール研修会のPRに協力 案内文書を市内の小中学校長へ9月30日発送。

◇第50回北海道ユネスコ大会 10月14~15日、釧路ユ協主管(青少年活動施設「ネイバル厚岸」)

◇出前講話 11月11日(江別創造舎)田村副会長が出講「屯田兵制のコンセプトと社会貢献」

◇北海道高校ユネスコ研究大会 2018年1月20~21日(北海商科大学)田村副会長が出席。

◇道ユ協・新年午餐会 1月27日(札幌グランドホテル)押谷会長・田村副会長が出席。

◇カレンダーの国際交換 絵入りカレンダー24部をインド、韓国、米国へ1月24日発送。

事務局雑記

◇本年度の当協会の活動は、定期総会の開催が遅れた影響で、一般的に停滞したことは否めません。会員の期待に添えなかったことを、事務局も反省し今後の運営の円滑化を図りたいと思います。

◇10月24日に、国連協会北海道本部と北海道庁総合政策部国際局が共催する「国連デー記念講演会」が、京王プラザホテル札幌で開かれました。

講演は2つ行われ、初めに「世界の移民・難民問題と日本の役割」の演題で長徳英晶・外務省国際協力局緊急人道支援課長が演壇に立ち、次に高橋祐介・NHK解説委員が「トランプ政権と多極化する世界」という演題で最近の国際情勢を分析しました。聴講者は予約制で、経済人や国際関係団体の役員、各大学の研究者、メディア関係者が多いように見受けました。東京直送の最新情報を聞いて、熱心に講師に質問をしていました。

◇11月4日に、「第6回道ユネスコスクール研修会」が北海道教育大・札幌駅前サテライト教室で開催され、田村副会長が出席しました。この研修会は道ユ協、道教育大釧路分校ESD推進セン

ターなどユネスコスクール支援団体が共催するもので、ユネスコスクール国内事務局を担当しているACCU(ユネスコ・アジア文化センター)が派遣する講師により、道内の小・中・高校の教員および関係者が、ユネスコスクールの運営・生徒指導・新設手続などについて研修を受けます。

2017年度の研修会については、ACCUの進藤由美・教育協力部長の講義と篠田真穂職員の指導によるワークショップが行われ、最後に大津和子道ユ協・会長の講評を聞いて終了しました。

◇12月17日に、第40回の「札幌インターナショナル・ナイト」が、京王プラザホテル札幌と「かでの2・7」を会場にして開かれました。主催団体は北海道青少年科学文化財団で、札幌ユネスコ協会と(公)北海道国際交流センターが共催しています。北海道ユネスコ連絡協議会は団体として実行委員会に加わっています。当日は田村副会長が出席しました。

出席者は外国人留学生約90名と日本の高校・大学生、ユネスコ関係者ら合わせて約290名でした。10時30分から三笠宮彬子様の「子どもたちの未来のために」と題する記念講演があり、13時から7つのテーマに別れてグループ・ディスカッションを行いました。16時30分からはブッフェ・パーティが開かれました。留学生は日本語の日常会話ができるので、日本の高校・大学生も英語を主に用い日本語で補って、宗教や教育など複雑・微妙な話題についても話し合いました。参加した日本の高校・大学生は、海外留学を希望する人が多く、各国の文化や価値観の相違点を学び、同時に会話力を高める良い機会になったと思います。

◇ここに紹介した行事のほかにも、ユネスコ会員に相応しい研修の機会は少なくないのですが、お知らせする時間的余裕がないことや、高い参加料を負担する可能性があることが残念です。改善策を考える必要があると感じています。(事務局長)

事務局連絡先：青少年係内電381-1069 担当大友